



戦後ノ貿易ト國際經濟戰(1)

津村, 秀松

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 20(6):901-922

(Issue Date)

1916-06

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052536>



戰後ノ貿易ト國際經濟戰（其二）

神戸高等商業學校教授

法學博士 津村 秀松

一

方今、外國貿易ニ關シテ、二箇ノ問題ガ、前途ニ横ツテキル。其ノ一ツハ、今回ノ歐洲大戰後、世界ノ貿易ハ何ウナルカトイフ問題デアル。戰後ノ世界ノ貿易ガ戰前ニ比シテ、一層旺盛ニ赴クカ、將又一時衰頹ニ陷ルカトイフ問題デアル。其ノ二ハ、世界ノ貿易ハ兎ニ角、戰後ノ日本ノ貿易ハ何ウナルカトイフ問題デアル。ソシテ、後ノ問題ニハ、盛衰孰レニアルカトイフ意味モ含マレテキルガ、ソレヨリモ寧ロ順逆孰レニアルカトイフ意味ニ重キヲ置クモノ、ヤウデアル。

然ラバ、コノ點ニ就テ、如何ナル意見ガ、專ラ我國ニ於テ行ハレツ、アルカトイフト、戰後ノ日本ノ貿易ガ、戰時中ノヤウニ、此儘輸出超過ヲ續ケテ行クデアラウトイフ樂觀說ト、反對ニ、戰後ノ日本ノ貿易ハ、戰前ノヤウニ、再ビ輸入超過ヲ現ハスニ至ルデアラウトイフ悲觀說トノ二種ニ分レテキル。即チ我國ノ貿易ノ盛衰トイフコ

トヨリモ、寧ロ我國ノ輸出ノ盛衰トイフコトニ重キヲ置イテ、ソレト輸入トノ比較ノ上ニ、樂觀悲觀交々存スルガ如クデアル。ソシテ斯カル點ニ斯ク重キヲ措クニ就テハ、斯クアルベキ一段ノ道理ガアルノデアル。

二

事改メテ言フマデモナク、我國ハ日清日露兩戰役後ニ於ケル過大ナル戰後經營ニ搗テ、加ヘテ多年ノ積極政策ヲ以テシタカラ、國家ノ財政ハ次第ニ困難ニ陥リ又之ニ壓セラレテ國民ノ經濟ハ段々ト窮迫ヲ告ゲタ。ソコデ政府ノ方デハ外債ノ募集トナリ、民間ノ方デハ外資ノ輸入トナツタハヨイガ、ソレガ爲メニ、公私ノ外債合シテ約貳拾億圓ニ近キモノアルニ至ツタ。之ニ對スル年々ノ利拂丈ケデモ、彼レ是レ壹億圓ニ達スルコト、ナツタ。其ノ上ニ、日清戰爭ノ翌年タル明治二十九年以來、中途明治三十九年及ビ明治四十二年ノ兩年ヲ除ケバ、打續テノ輸入超過デ、而モ其ノ高ガ年々増加シテ、終ニ大正二年ニハ九千七百萬圓ニモ上ルニ至ツタ。ソコデ彼レ是レ相俟ツテ、正貨流出ノ勢益々甚シキヲ加フルニ至ツタカラ、之ガ補充ノ爲メニモ、又外債ヲ募集スルコト、成ツタガ、借金ヲシテ借金ヲ返ストイフ血デ血ヲ洗フ借金政策ヲ弄シテハ、何時マデモ、浮ブ瀬ガナイトイフ譯デアル。又斯ク外債政

策ヲ繰返シテ居ツテハ、ソレガ基ニ成ツテ、何時マデモ、輸入超過ノ勢ガ止マヌノミカ、益々其ノ勢ヲ加ヘシムル原因ニモナル。ダカラ、正貨補充ノ必要ヲナクスル爲メニ、暫ク兌換制度ヲ中止スベシトイフ極端ナ議論モ出ヅルヤウニナツタガ、ソレガ出來ナイトスレバ、何トカシテ、貿易ノ逆調ダケデモ喰ヒ止メテ、正貨流出ノ勢ヲ殺ガナケレバ、日本ノ財政從テ又日本ノ經濟ノ前途ハ、實ニ暗澹タルモノデアルトノ一大悲觀ヲ爲サチバナライ狀況ノ下ニアツタ。斯カル矢先キニ、大正三年ノ秋、突然歐洲ノ大戰爭ガ起ツタノデアル。ソシテ其ノ結果、歐洲カラノ輸入ガ減退スル一方ニ、歐洲ニ向ツテノ軍需品ノ輸出ヤラ、中立市場ニ於テノ歐洲品ニ對スル代用品ノ需要ガ殺到シ來ツタカラ、彼レ是レ相俟ツテ、大正三年ニハ輸入超過僅ニ四百六拾萬圓ニ下リ、大正四年ニハ、形勢全ク一變シテ、壹億七千五百萬圓トイフ未曾有ナル輸出超過ヲ見ルニ至ツタ。本年ニ入ツテハ、更ニ其趨勢著シク、日本ノ貿易ノ常態トシテ、通常輸入超過ノ打チ續クベキ上半期ニ於テサヘ、連月夥シキ輸出超過デ、五月上旬マデノ間ニ、既ニ六千參百五拾萬圓ノ出超ヲ見ルニ至ツタ。此調子デハ、本年ハ必ズ貳億圓以上ノ出超ヲ見ルデアラウトイフ見込モ、略ボ確實ナモノトナツタ。然シナガラ、斯ク我國ノ貿易ノ趨勢ガ一變スルニ至ツタコトハ全ク自働的デナ

ク、他働的デアル。即チソレハ歐洲戰爭トイフ偶然ノ一大事變ガ齎シ來ツタ賜ニ過ギヌノデアツテ見レバ、一朝此戰爭ガ終結ヲ告グルト、我國ノ貿易モ亦再ビ戰前ノ狀態ニ復シテ、輸入超過ヲ見ルニ至リハシナイデアラウカトイフ懸念ガ、自カラ生ゼザルヲ得ナイノデアル。ソシテ再ビ輸入超過ノ舊態ニ復スルカドウカトイフコトガ債務國タル我國ノ財政及ビ經濟ノ上ニ至大ナル影響ヲ見ルモノデアルコト、前述ノ如クデアツテ見レバ、我國ノ事情カラシテ、戰後ノ貿易ガ盛衰何レニ在リヤトイフ問題ヨリモ、順逆何レニ在リヤトイフ問題ノ方ガ、今モ尙ホ一層重大ナ問題タラザルヲ得ナイノデアル。然ラバ、此問題ニ關シテ、目下我國ニ行レツ、アルトロノ樂觀說悲觀說何レガ正シイカトイフト、何レモ未來ノコトデアルカラ、到底正確ナ判斷ヲ下シ難イノデアルガ、私ハ差シ當リ樂觀說ノ方ニ、信ズベキ理由ガ多イヤウニ思ハル、カラ、先ヅ其ノ說クトコロヲ述ベテ、次デ之ニ對スル適當ナル批判ヲ下シテ見度イト思フ。

三

戰後ノ貿易ノ前途ヲ樂觀シ得ル理由ノ第一トシテハ、先ヅ以テ、歐洲諸國ノ生産ノ競争力ノ減少トイフコトガ舉ゲラレテキル。何故ニ歐洲諸國ノ製品ガ戰後ニ於

テ其ノ競争力ヲ殺ガル、コト多大デアルカトイフト、ソレニハ種々ノ原因ガアル其ノ内主要ナルモノヲ擧ゲテ見ルト、

一 資本ノ缺乏

二 勞力ノ不足

三 企業ノ畏縮

四 生産費ノ膨脹

ノ四原因ガ、即チソレデアル。

四

先ヅ第一ニ、生産ノ二大要素デアルトコロノ資本ト勞力トニ就テ、戦後ノ歐洲ヲ考ヘテ見ルト、何レモ甚ダシキ不足ヲ感ゼザルヲ得ナイ。戦時ハ勿論戦後ニ至ツテモ歐洲諸交戦國ニ於ケル公債ハ非常ニ増加セザルヲ得ナイ。戦後ノ經營トカ、諸般ノ復舊工事トカ、恩給年金ノ支拂トカ、不換紙幣ノ銷却トカ、借上金ノ返済トカ、尙ホ事ニヨツタラ、償金ノ支出トカイフヤウナ方面ニ要スル資金ヲ調達スル爲メニ、此上更ニ莫大ナル公債ヲ募集セチバナラヌコトニナル。尤モ其ノ内一部ハ租税ノ増徴ニヨルデアラウシ、又後チニ至ツテ、漸次租税ニ轉嫁サルル部分モ決シテ少クハ

ナカラウガ、差シ當リハ戰時戰後ヲ通ジテ莫大ナル流動公債及ビ確定公債ノ募集トイフコトニ成ルニ相違ナイ。

過般丁抹ノ首都コペンハーゲンニ設ケラレタ『歐洲戰爭ノ社會的影響調査研究會』 Selksabet for Social Forsken af Krigens Folger ガ近頃發表シタトコロノ調査書ニヨルト、歐洲諸交戰國ニ於ケル公債ナルモノガ、是レ迄ニ支出シタ戰費カラ推算スルト、本年八月マデ此ノ戰爭ガ繼續スル場合ニハ大要左ノ如キモノトナルトイフコトデアル。

國名	戰前 百万円	本年一月 百万円	本年八月 百万円
英吉利	七、〇七〇	二一、二五〇	二九、〇〇〇
佛蘭西	一三、二〇〇	二五、二〇〇	二九、二〇〇
露西亞	九、二〇〇	二二、二〇〇	三〇、〇〇〇
伊太利	五、七〇〇	七、六〇〇	九、二〇〇
獨逸	* 二、五〇〇	一六、二〇〇	二四、五〇〇
奧匈	七、五〇〇	一四、〇〇〇	一八、〇〇〇

(備考) * 獨逸ノ部ハ獨逸帝國ノ分ダケデアル。

之レデ見ルト、本年ノ八月ニナレバ、英吉利ノ公債ハ戰前ニ比シテ四倍餘、佛蘭西ハ二倍餘、露西亞ハ三倍餘、伊太利ハ約二倍、獨逸ハ約十倍、奧匈ハ約二倍半トナルノデアル。ダガ、此推算ハ尙ホ多少不確實タルヲ免レナイガ、現ニ英吉利ノ如キモ、本年度

末マデニハ、既發公債ノ高ガ三百四十四億圓ニ達スルトイフ豫算ニナツテ居ルコトハ、過日ノ同國大藏大臣ノ説明ニ徴シテモ知レルノデアルカラ、其ノ割合カライフト、大體ノ趨勢ハ斯クノ如キモノデアラウ。又何分將來ノコトデアルカラ、多少ノ違算ハアルニシテモ、今回ノ戰爭ニヨツテ、各交戰國共ニ莫大ナル公債ノ増加ヲ見ルモノダトイフコトハ、此調査ノ數字ニヨツテモ、大要ヲ知ルコトガ出來ル。ソシテ此調査ハ、本年八月マデ戰爭ガ續クトシテノ計算デアルガ、假令ヒソレマデニ戰爭ガ終末ヲ告ゲテモ、即チ戰後ニ入ツテモ、尙ホ當分ハ少カラヌ公債ノ増加ヲ見ルベキ運命ノ下ニ在ルノダトイフ事ハ既ニ曩キニ述ベタ如クデアアル。ソコデ、戰時戰後ヲ通ジテ、コノ如クシテ生ズル公債ノ激増ガ自カラ歐洲ニ於ケル一般金融ノ逼迫ヲ齎シ來ルモノデアアル。又コノ如クシテ生ズル金融ノ逼迫ガ、自カラ歐洲ニ於ケル金利ノ騰貴ヲ齎シ來ラズシテハ止マヌノデアアル、現在デモ、平時ナラバ三朱前後デアルベキ倫敦ノ金利ガ、既ニ五朱以上ヲ唱ヘテキル。二分五厘ト相場ノ定ツテ居ッタ英吉利ノ公債ガ、四分五厘若クバソレ以上デナケレバ、募集シ得ナイヤウニナツテ居ル。英吉利ニ於テ尙ホ且ツ然リ其ノ他ノ國ハ推シテ知ルベキデアアル。ガ然シ、念ノ爲メ、一應其ノ概況ヲ述ベテ見ルト、佛蘭西ノ公債ハ、戰前ニハ先ヅ三朱見當デア

ツタガ、昨年ノ末ノ軍事公債ガ既ニ五朱トナツテ居ル。伊太利ノ公債モ、平時ハ三朱乃至三朱半ヲ標準トシテ居ツタガ、戰後第一回ノ公債ガ、四朱半、第二回ガ五朱トナツタ。露西亞ノ公債ハ、平生ハ四朱前後デアツタモノガ、開戰後忽チ五朱以上六朱ニ近ク上ツテキル。現ニ同國ノ第四回ノ内債ガ利率年五分半、發行價格九十五デアツタシ、又倫敦ニ於ケル露國藏券ノ利廻リガ六分見當ヲ示シテ居ル。又獨逸ノ方面ヲ見テモ、獨逸ニ於ケル戰前ノ公債ガ、三朱乃至三朱半デアツタノニ、戰時公債ノ利子ハ一切五朱ト改ツタ。獨逸ノ公債モ、平時ニアツテハ、四朱見當デアツタガ、ソレガ今回ノ戰爭トナツテカラ、獨逸ノ公債ハ五朱半、匈加利デハ六朱トマデ上ツテキル。各國與ニ公債ノ利子ガ、斯ク騰貴シタトイフコトハ、獨逸ノ公債ノ利子ダケノコトデナク、一般市場ノ金利ガ既ニコレ若クバコレ以上ニ騰貴シタトイフ證據デアル。現ニ倫敦デハ、戰前三朱デアツタ銀行利率ガ、今日デハ五朱トナリ、戰前二朱デアツタ市場利率ガ、今日デハ五朱乃至五朱八分ノ一ヲ示シテ居ル。ソシテ又斯ク市場一般ノ金利ナリ、各國ノ公債ノ利子ナリノ騰貴ハ、戰爭中ダケノコトデハナク、戰後ニ至ツテモ、以上述べタ理由デ、容易ニ下落セナイドコロカ、戰後ニ到來スベキ歐洲諸國ニ於ケル不換紙幣整理ノ時代ニハ、歐洲ノ金融ガ、今日以上ニ更ニ緊縮ノ運命ニ逢着ス

ベキモノダト謂ハ子バナラス。

五

尤モ、現在交戰國タル歐洲諸國ハ、孰レモ外國ニ對スル貸金ガ澤山アル。戰後自國ニ資本ガ必要トナレバ、之ヲ回收スルコト左迄困難デナイ。又金利ガ騰貴シテ戰後自國ニ於テ募集セラル、公債社債其ノ他ノ有價證券ノ利廻リガ善クナルト、是レマデ保有シ來レル外國ノ公債ヤ社債ノ類ヲドシ、賣拂フテ、資金ヲ調達スルコトニナルデアラウ。更ニ又今回ノ戰爭デ、夥シキ收益ヲ見タ米國アタリカラ、外資ヲ輸入スルコトニナルカモ知レヌ。然シ、歐洲諸國トテモ、戰前ノヤウニ、戰後ニハ、米國ヲ初メ諸外國カラ、回收シ得ベキ巨額ノ貸金ヲ保タナイ、又戰前ノヤウニ戰後ニハ容易ニ且ツ低利ニ、外資ヲ輸入スルコトモ出來ナイノ「デアル」スタチスト」ノ所報ニヨルト、開戰後一箇年ニシテ、歐洲ノ諸交戰國ガ外國カラ回收シタ金及ビ借入レタ金ノ總額ガ既ニ七拾億圓ニ上ツタトイフコト「デアル」(Statistic, Oct. 23, 1915, P. 160)又去ル二月四日ニ Sir George Paish ガ London School of Economics デ試ミタ The Economic Strength of Great Britain ト題スル講演ノ一節デ、英吉利ダケガ、開戰以來今日マデノ間ニ、海外カラ回收シタ債權ノ高ガ、既ニ彼レ是レ參拾五億圓ニ上ルト稱シテキル。英佛獨等

ノ國ガ戰前外國ニ貸付ケテ居ツタ金ハ、無慮六百億圓ト稱セラル、ガ其ノ内ニハ自國ノ殖民地ニ對スル貸付ガ大ナル部分ヲ占メテ居ルシ、又御互ノ間ノ融通モ少クナイ。例令バ、此内最大ノ債權國タル英吉利ノ如キ、對外放資約參百七拾五億圓ノ内米國ニ對スル貸付六拾億圓、南米諸國ニ對スル貸付六拾五億圓、歐洲大陸及比亞細亞諸國ニ對スル貸付六拾億圓ヲ除イタル殘額百九拾億圓ハ、實ニ印度ヲ初メ英領諸殖民地ニ對スル貸付デ、全體ノ約半ニ達スルモノデアル。トコロガ、今ヤ英吉利ハ佛露白等ノ與國ニ對シテ、戰費ヲ補助スベキ金主タル位置ニ立ツモノデ、又此際英本國ニ向ツテ、忠勤ヲ挺ヅル諸殖民地ニ對シテモ、財的援助ヲ與フベキ約束ノ下ニ在ルモノデアル。ソコデ、英吉利ハ既ニ是等ノ諸國ニ向ツテ、昨年度ニ約三拾五億圓ノ融通ヲ試ミタ。本年度内ニハ、更ニ約四拾五億圓、事ニヨルト、ソレデモ尙ホ不足デ、彼レ是レ六拾億圓ニ上ル融通ヲ爲サ子バナラヌカモ知レスト稱セラレテキル。斯様ナ譯デアルカラ、此戰爭ガ此先キ尙ホ一年モ二年モ續クト、戰時中ノ回收金ナリ借入金ナリガ夥シイ金額ニ達スルデアラウカラ、戰後ニ至ツテ、更ニ回收シ得ルトコロ、多クヲ剩サナイデアラウシ、又他カラ借入ル、ニシテモ、ソレハ決シテ容易デナク、又低利ノモノトハ思ヘナイノデアル。

六

然シナガラ今回ノ戦争後、資本ニ窮スルノハ、獨リ交戰國タル歐洲諸國ノミデハ
ナイ。世界何レノ國タリトモ、多少ニ拘ラズ、一時ハ這般ノ苦痛ヲ感ゼザルヲ得ナイ。
其ノ譯ハ、現在歐洲ニ於テノ交戰國ナルモノハ、世界有數ノ金貨國ノミデアル。戰前
他國ニ金ヲ貸シ得ル餘裕ノアツタ國ハ、世界廣シト雖モ、實ハ英佛獨及ビ白耳義和
蘭瑞西ノ六箇國ニ過ギナカツタ。米國モ南米又ハ東洋ニ金ヲ貸シテ居ツタガ、他方
上記ノ歐洲諸國ニ負フトコロ、更ニ莫大ナモノデアツタカラ、未ダ純然タル金貨國
ノ域ニ達シテ居ナカツタ。果シテ然リトセバ、今回ノ歐洲戦争ハ、世界ニ於ケル有數
ノ金貨國ト金貨國トノ間ノ戦争デアル。ソコデ、何レガ勝チ、何レガ負クルニシテモ、
斯カル大戰ノ後チハ、是等ノ金貨國モ、當分ハ是レマデノ如ク他國ニ金ヲ貸ス餘力
ヲ剩サスモノト見予バナラス。ソレドコロ、デヤナイ、戦争中ニモ、又戰後ニモ、豫テ諸
國ニ貸附ケアル金ヲ、出來得ル限り回收シテ、之ヲ本國ニ於テ用ユル方針ニ出ヅニ
相違ナイ。サウナルト、是レマデ外資輸入ニヨツテ、金融ヲ付ケテ居ツタ諸國ノ購買
力ハ、頓ニ減少スルコトニナル。戰後ハ、世界ノ金融ノ中心ガ、倫敦カラ紐育ニ移ルト
イフ評判モアルホドデアルカラ、歐洲ニ代ツテ米國ガ、多少此方面ノ融通ヲ附クル

コトニ成ルデアラウガ、何分一國ノ力デアルカラ、米國タリトモ、到底充分ノコトハ出來ヌ。何レニシテモ、戰後ハ戰前ホドニ、國際金融ノ疏通ヲ望メナイ。シテ見ルト、戰後資本ニ窮スルノハ、獨リ交戰國タル歐洲諸國ノミデナク、世界何レノ國タリトモ多少ニ拘ラズ、這般ノ苦痛ヲ感ゼザルヲ得ナイ。尤モ、其ノ程度ハ、今回ノ戰爭ニ乗ジテ貿易上ノ利益ヲ占ムルコト大ナル國ホド少ク、然ラザル貧乏國ホド大ナノデア。ソシテ、又ソレガ原因ト成ツテ、戰後ニ於ケル是等ノ國ノ購買力ヲ減退セシムルノデア。アルカラ、此ノ方面ニ於ケル貿易モ、一時ハ大ナル影響ヲ被ラザルヲ得ナイト思フ。

此種ノ國ノ内デ、最モ大ナル影響ヲ被ムルモノハ、恐ク隣邦支那デアラウ。近年支那ニ於ケル貿易ノ發達ハ、支那自身ノ國民經濟ノ發達ニ負フトコロ少クハナイガ、ソレトテモ、更ニ其ノ原因ヲ探ツテ見ルト、此國ニ於ケル鐵道ヤ、鑛山ニ向ツテ、歐洲ノ資本ガ盛シニ注入サレタコトニヨルトコロ少ナカラザルモノデア。殊ニ此國ニ於ケル頻年ノ財政ノ不如意ニ因スル歐米ヨリノ諸種ノ借款ガ、絶エズ此國ノ外國品ニ對スル購買力ヲ涵養シタコトニ負フトコロ大ナルモノデアツタ。トコロガ戰後ノ支那ハ、戰前ノ支那ノ如クニ、自由ニ外資ノ輸入ヲ仰ゲナイ、又借款ノ成立モ

容易デナイトシテ見ルト、戰後ニ於ケル支那ノ購買力ノ減退ガ、自カラ此國ノ外國貿易ヲシテ、是レマデノ如キ調子ニ發達セシムルデアラウカドウカガ、甚ダ疑問ダト謂ハチバナラヌ。戰後ノ南米諸國ノ貿易ニ就テモ、略ボ之ト同一ノ感ガアル。

七

戰後ノ勞力ニ至ツテハ、戰後ノ資本ニ比シテ、猶ホ一層缺乏ヲ感ズルデアラウ。今ヤ交戰國ハ、孰レモ、現役兵ハ申スニ及ハズ、豫備モ、後備モ、殆ンド盡キナントシテキル。剩ストコロ幾許モナイ。ソコデ十六歳乃至十八歳以上四十歳乃至四十五歳以下ノ國民兵ヲ招集シテ、戰ヲ繼續シテキル次第デアルガ、此戰爭ガ猶ホ永ク續クト、ソレモ段々ニ死傷兵ト化シ行クノデアアル。我陸軍某軍政家ノ調査ダトシテ新聞紙ニ傳フトコロニヨルト、開戰以後ニ於ケル歐洲諸交戰國ノ兵力ノ消長ハ、大要左ノ如キモノデアルトノコトデアアル。

交 戰 國	開戰當時ノ兵力	
	平時ノ兵力	戰線ノ兵力
聯 合 軍	二、三五〇 千人	五、七五〇 千人
	一、五五〇	二、八五〇 千人
同 盟 軍	五、〇〇〇	一、九五〇
		五、四五〇

内地要塞其
他ノ守備兵
開戰後ノ損傷兵
力(本年三月調)

是ニ由ツテ之レヲ觀ルト、開戰以後二十箇月ノ間ニ、敵味方双方共ニ、開戰當時戰線

ニ立テル兵力以上ノ兵力ヲ既ニ損傷シテキル。尤モ現在戰線ニ立テル兵力ハ、其後盛ンニ補充セラレテ、聯合軍ニ於テハ、約九百六十萬人、同盟軍ニ於テハ約六百七十萬人ト註セラレテキル。ガ然シ、過去二十箇月間ノ損傷兵力ノ割合カラ推斷スルト現在戰線ニアル是レ丈ケノ兵力モ、此後二箇年モ戰爭ガ續ケバ、大方損傷兵ニ化スルカモ知レヌ。

特ニ獨逸ニ就テ考ヘテ見ルト、方今獨逸ニ於ケル滿十八歲以上五十四歲以下ノ男子ハ、不具癱疾者ヲ除ケバ、約千五百二十五萬人デアル。此内、徵兵ノ際不合格免役者ト成ツタ者ガ約三百九十五萬人、四十六歲以上五十四歲マデノ頽齡者ガ約百八十萬人アルカラ、之ヲ差引クト、滿十八歲以上四十五歲迄ノ者ノ内、テ實際兵役ニ從事シ得ル體質及ビ體格ヲ有スル者ハ、殘數約九百四十五萬人ヲ以テ、極度ト見テバナラヌ。此内、開戰當初ノ兵士タリシ者ガ、野戰軍ニ於テ二百五十萬人、留守軍守備隊ト補充部隊トニ於テ百萬人、合計約三百五十萬人デ、其ノ後ノ野戰部隊ノ補充ガ、一九一四年八月乃至十二月ニ百四十萬人、一九一五年一月乃至十二月ニ二百四十五萬人、一九一六年一月乃至三月ニ六十萬人、合計約四百四十五萬人デ、以上兩者總計約六百九十五萬人トイフモノガ、是レマデニ既ニ徵發サレタ人員デアアル。即チ今ヤ獨逸ニ於テハ

徵發シ得ベキ全人員ノ約七割ヲ徵發シ盡シタモノデアル。而モ此内既ニ損傷兵ト化シタ者ガ約三百十五萬人ニ達スルカラ、現在戰線ニ立ツテ居ル者ハ約三百八十八萬人デアル。此外ニ尙ホ目下後方ニ約百二十萬人ノ補充兵ヲ有スルトイフガ、ソレニシテモ剩ストコロノ兵力ハ合計約五百萬人ニ過ギヌ。尤モ、獨逸デハ、滿十八歲以上四十五歲マデノ者ヲ全部徵發スルトスレバ、尙ホ此外ニ約百三十萬人ヲ得ル勘定デアルガ、此位ノ人員ハ、後方勤務職工其他ノ役目トシテ、常ニ戰線外ニ保留セテバナラス。ソコデ、先ヅ戰線ニ立シメ得ル殘餘ノ兵數ガ約五百萬人トイフコトニナル。トコロデ、現在ノ獨逸ノ損傷兵數ハ每月約二十萬人ト稱セラル、カラ、現在ノ如ク猛烈ニ戰ヲ續ケテ行クト、一年ニシテ、其ノ半數ヲ失ヒ、二年ニシテ殆ンド其ノ全數ヲ損傷スルカモ知レヌ。ソシテ、ソレハ其ノ曉ニハ、獨逸ニ於ケル滿十八歲以上四十五歲以下ノ壯健ナリシ男子ガ殆ンド皆一度ハ損傷兵ニ化スルモノダトイフコトヲ意味スルモノデアル。而モ此種ノコトタル、獨リ獨逸ノミデハナイ。他ノ歐洲諸交戰國ニ於テモ、亦皆大同小異ナル成行キヲ免レナイノデアル。

八

凡ソ此種軍事ニ關スル知識ハ、私等ノ最モ缺乏スルトコロデアルカラ、以上引用

ノ統計的研究及ビソレヨリ生ズル推斷ガ、果シテ正鵠ヲ得テ居ルヤ否ヤ保證シ兼スル。又獨逸ヲ初メ歐洲諸交戰國ニ是レ丈ケノ損傷兵ヲ生ジ、ソレ丈ケハ、戰爭中戰鬪力ヲ減ジ又ハ全然之ヲ失フモノダトシテモ、戰後ニ於ケル經濟上ノ勞働力ニ就テハ、是レ丈ケ減ジ。ソレ丈ケ失フモノノミトハ限ラヌ。ガ然シ、何レニシテモ、今回ノ如キ大戰爭ガ、今日ノ如ク激シク繼續サレテ行ク以上ハ、何レノ國ニ於テモ、其ノ國ノ人口中、勞力ノ中心トモ稱スベキ滿十八歲以上四十五歲以下ノ男子ニ、著シキ缺損ヲ生ゼシムルモノデアルコト丈ケハ明カナル事實デアアル。戰時ニ於テ、女子勞働者ノ増加スルコトモ恐ク既定ノ事實デアアルガ、勞働ノ種類ニヨツテハ、全ク代替スル能ハザルモノ、又ハ全ク代替ヲ許サナイモノガ少クナイ。代替シ得ベキ方面ニ於テモ、勞力ノ量ニ於テ、將又質ニ於テ、未ダ俄ニ同一タルヲ期セラレナイ事情モアル。シテ見ルト、一國ノ勞力ノ中堅タル部分ノ上ニ、著シイ缺陷ヲ生ゼシムルコト既ニ歷然タル今回ノ戰爭ハ、戰後ニ於ケル是等諸交戰國ノ勞働力ノ上ニ、非常ナル減少ヲ起スモノダト見テバナラス。果シテ然リトスレバ、戰後ノ歐洲諸交戰國ニハ、所謂『勞働期』又ハ『生産時代』ニ在ル者_{即チ壯年者}ノ數ガ夥シク減少スルコト、及ビソレト『不勞働期』又ハ

『不生產時代』ニ在ル者即チ少年者及ビ老年者

トノ釣合及ビ優良分子ト劣惡分子トノ釣合ヲ失スルノ甚シキニ至ルコトガ相埃ツテ、是等諸國ノ生産力ヲ減殺スルニ至ルデアラウ。

ソレモ普通ノ壯丁ガ減少スルノナラバ、戰後ノ影響ハマダ輕イ。又勞働者ニシテモ、ソレガ不熟練勞働者ノ減少ナラバ、戰後ノ打撃モ左マデ重クハナイ。ガ然シ、時局ノ發展ニ伴フテ、追々熟練勞働者ノ出征ガ多クナルヤウデアルカラ、之ガ多ク死傷兵ト化スルコトニ成ルト、戰後ノ諸工業ガ到底俄ニ復活シ難クナル。少クトモ其ノ復活マデニ、相當ノ日月ヲ要スルコトニナル。尤モ、戰後ニ勞力ノ大ナル不足ガ起ルトスルト、ソレニ伴フテ、賃銀ノ暴騰ヲ見ルカラ、高キ勞力ヲ省ク必要上、歐洲諸國ニ於ケル機械ノ發明、機械ノ應用ガ、更ニ一段ノ急進歩ヲ見ルコトニナル。然シ、機械ノ發明ナリ、機械ノ應用ニヨツテ、省カレル勞力ハ、不熟練勞働タル部分ニ多イノデアツテ、熟練勞働ノ方ハ、左マデ著シイ節約ヲ見ルコトガ出來ヌ。又其ノ之レアルヲ見ルマデニハ、更ニ多クノ日月ヲ要スルモノト見テバナラヌ。

九

斯クノ如クシテ、戰後ノ歐洲ニ勞力殊ニ熟練勞力マデガ著シク缺乏スルニ至ルトイフコトハ、戰後ノ歐洲ニ、更ニ一段勞働上ノ紛爭ヲ繁カラシムル原因ニモナル。

一體今回ノ戰爭ニ際シテ、歐洲各國ノ社會主義者ナリ[サンヂカリスト]ナリガ平生ノ主義主張ヲ忘レ、開戰ト同時ニ總同盟罷工ノ企ヲ敢テスル能ハザリシノミカ、彼等ニモ亦故國アルガ如キ態度ヲ採ルニ至ツタコトハ、今回ノ戰爭ニ際スル一種ノ奇蹟トシテ、夙ニ天下ノ耳目ヲ聳動セシメタコロデアアル。ダガ、其ノ善惡邪正ハ兎ニ角、今回ノ戰爭ヲ界トシテ、今後ハ彼等モ亦彼等年來ノ主張タル階級戰ニ代フルニ國民戰ヲ以テスルノ覺悟アルニ至ルモノデアラウガ戰時ハ兎ニ角、平時ニ於テモ、『橫斷戰』ニ代フルニ『縱斷戰』ヲ以テスルノ覺醒アルニ至ルモノデアラウガ之ハ尙ホ大ナル疑問デアアル。結果ハ恐ク其ノ反對デアツテ、戰後ニハ是迄ヨリモ一層階級戰ガ猛烈ナルニ至ルモノデアアル。橫斷戰ガ更ニ一層峻烈ノ度ヲ加フルニ至ルモノデアアルト信ズル方ニ理由ガ多イヤウデアアル。尤モ、今回ノ戰爭ニ際スル各國社會主義者ノ多數ノ態度ガ、平生ノ主義主張ニ比シテ、如何ニモ徹底ヲ缺イタトイフ一般ノ感ジガ、斯主義ノ發達ニ對シテ、少ナカラヌ打撃トナツタコトハ、爭フベカラザル事實デアアル。ダカラ、一般ニハ、非社會主義的傾向ノ增長ヲ見ルニシテモ、此戰爭ハ社會主義的思想ヲ絶滅セシムルホド偉大ナルモノデナイノミカ、却テ此戰爭ガ堅實ナル社會主義者ヲシテ、一層其ノ思想ヲ深カラシメ、其ノ主張ヲ強カラシムル或

物ヲ齎シ來リツ、アルモノナルコトヲモ知ラチバナラス。

一〇

戰後歐洲ノ文明國タル各交戰國ノ社會上ニ及ボス此戰爭ノ影響ハ、全ク人ノ意表ニ出ヅル性質ノモノガ多カラウ。就中、ソレガ富ノ分配ニ關シテ最モ顯著ナルモノアルヤウデアル。今回ノ戰爭デ、歐洲各國ノ莫大ナル富ガ毎日々々破壊サレツ、アルノハ事實デアルガ、ソレガ同時ニ、他ノ一面ニ於テ莫大ナル富ノ散布サレツ、アルコトヲ意味スルノデアルトイフノガ、其ノ一ツデアル。又コノ莫大ナル富ノ散布ガ、廣ク下層社會ニ向ツテマデモ行キ互ツテ行ハレツ、アルノハ事實デアルガ、ソレヨリモ一層著大ニ、上層社會殊ニ最上層社會ニ向ツテ行ハレツ、アルトイフノガ、其ノ二デアル。即チ社會ノ富ガ破壊サレツ、アルトイフコトハ、社會ノ富ガ分散サレツ、アルトイフコトデ、ソシテ又其ノ富ノ分散ガ、下ニ向ツテ分散サレ行ク分量ヨリモ、上ニ向ツテ分散サレ行ク分量ノ方ガ遙ニ多イヤウデアル。從テ、戰爭ガ社會ニ於ケル富ノ分配ヲ善クスルトイフ傾向ヨリモ、之ヲ一層惡シクスル傾向ノ方ガ遙ニ強イヤウデアル。尤モ之ハ獨リ今回ノ戰爭ニ限ツタ話デハナイ。是レマデノ何レノ戰爭ニ於テモ、皆然リデアツタ。近イ話ガ、日清日露ノ兩戰役ニヨツテ、戰後

ノ日本國民ノ負擔ガ、アラユル租稅從テ又アラユル社會ニ互ツテ、著シキ増加ヲ見タト同時ニ、又幾多ノ成金ガ、此戰爭ノ結果トシテ續出シタトイフコトハ、此二回ノ戰爭ガ、我國ニ於ケル富ノ分配ノ上ニ著シキ變化ヲ起サシメタ何ヨリノ證據デア。唯今回ハ戰爭ガ大キイ丈ケニ、此種ノ影響モ亦大キイトイフニ過ギス。

何レニモセヨ、戰爭ハ集中セル富ヲ分散セシムル働キヨリモ、分散セル富ヲ集中セシムル方ノ働キガ遙ニ強イヤウデア。戰爭ノ爲メニ多數ノ勞働者ガ受クル不時ノ利得ヨリモ、少數ノ資本案ノ受クル不時ノ利得ノ方ガ、割合ニ於テモ、總額ニ於テモ、遙ニ莫大デア。加之、戰後ニ於テ免レザルトコロノ物價ノ騰貴、租稅ノ増徴等ガ、更ニ多數者間ノ富ヲ少數者間ニ集中スル作用ヲ助成スルモノデア。殊ニ戰爭ノ爲メニ數倍ト成ツタ各國ノ公債ノ元利ヲ、此後ハ租稅ノ増徴ニヨツテ支拂ツテ行クトイフ段取りニナルト、貧者ニ益々苦痛多クシテ、富者ヲ愈々富裕ナラシムル所以トナル。斯クノ如クシテ、今回ノ戰爭後ニ於ケル歐洲各國ノ社會ニハ、更ニ一層甚シイ富ノ分配ノ不均均ヲ招クコトニナル虞レガアル。尤モ此種ノ虞レアルガ爲メニ、英吉利ヲ初メ、他ノ交戰國デハ、所得稅ヤ財產稅ニ就テ、新ニ著シイ累進率ヲ設ケタリ、又新ニ直接戰爭ニ基ク收益ニ對スル重稅ヲ設ケタリ、若クバ之ヲ設ケ

ヤウトシテキル。ガ然シ、是レ丈ケノコトデ、果シテ能ク戦争ニ基ク富ノ分配ヲ調節シ得ルデアラウカ、大分ニ疑問ダト申サチバナラス。之ガ疑問デアルトシテ見ルト、戦後ノ歐洲諸國ニ於ケル社會戦ハ、國際戦ニ比シテ、優ルトモ劣ルモノナキニ至ルカモ知レヌ。

一 一

戦時中ニハ、勞力ガ缺乏デアルノト、軍需品ノ製造ヤラ、其ノ他政府ノ御用ヲ引受ケルノデ、資本家ニモ利益ガ多イカラ、賃銀其ノ他ノ勞働條件ガ、勞働者ノ要求ノママニ、大分改良サレテ居ルガ、ソレガ皆戦時中トイフ約束ノ下ニアルモノデアル。ソコデ、戦争ガ終結ヲ告グルト、一般ニ資本家ノ收益モ減少スルカラ、勞働條件ヲ還元シヤウトイフ試ミガ起ツテ來ル。之ニ對シテ、勞働者ガ唯々諾々唯命維レ從ヘバ、ソレマデ、アルガ、一旦改良サレタ勞働條件ヲ改惡スルトイフコトハ、假令ヒ當初ノ約束デアツタニシテモ、容易ニ承諾ヲ肯ズルモノデナイ。賃銀ノ増加ニ伴フテ引上ゲタ生活程度ヲ再ビ引下グルトイフコトハ、勞働者ト雖モ、決シテ忍ビ易イコトデハナイ。ソコデ、自カラ其ノ間ニ勞働紛争ヲ繁カラシメザルヲ得ナイノデアル、

今回ノ戦争ガ動機トナツテ、歐洲諸國ニ於ケル思想界ニ、國家主義、帝國主義、君主

主義干涉主義ノ思潮ガ高マリ、之ニ應ジテ各國ノ政治ノ上ニ、或ル意味ニ於ケル復古的傾向ガ強クナルト思ハルル。ソコデ、之ニ反スル社會主義的思潮ノ如キモ、戰後一時ハ、戰前ノ如クニ、一般ノ同情ヲ得難クナルデアラウガ、サウナルト後チニハ却テ帝國主義ヲ初メ新ニ増長シ來ル世ノ思潮ニ對スル反抗トシテモ、勞働者ヲ初メ、第三及ビ第四階級ノ反動ガ、自カラ猛烈ノ度ヲ加ヘザルヲ得ナイ。ソレガ又產業界ヲ初メ各種ノ方面ニ盛ンナル階級戰ヲ齎シ來ル基ニナル。ソコデ、其ノ一方面デアルトコロノ勞働者對資本家ノ衝突モ、戰前ノ如クニ、各種勞働者ガ一般ニ饒多デアリ、從テ失職業者ヤ、無職業者ヨリ成ル所謂ル勞働上ノ豫備軍ノ一團ガ、背後ニ控エテキル時分デアルト、一旦ハ起ツタ衝突モ、常ニ或ル程度デ妥協ヲ見ルガ、一般ニ勞力ノ缺乏ヲ見ル戰後ニハ、勞働者ノ氣焰ガ嵩マルベキ道理デアル上ニ、搗テ、加ヘテ、今回ノ戰爭ニヨル富ノ分配ノ不平均ノ増長ガ、益々社會ノ上層ニ對スル下層ノ不平ト不滿ヲ盛ンナラシムル基トナルカラ、資本家對勞働者間ニ起ル衝突ガ數多イト同時ニ、一旦起ツタ衝突ハ、容易ナコトデハ妥協ヲ見難クナルト思フ。(未完)